

# アーチルニュース ちえなっぴ

発行元：仙台市発達相談支援センター 〒981-3133 住所：仙台市泉区泉中央2丁目24-1

TEL：022-375-0110 FAX：022-375-0142 e-mail：arch1@luck.ocn.ne.jp

<http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou/>

## 地域生活支援の充実をめざして

アーチルがスタートして5年目。ちえなっぴが今後も"前を向いて"というメッセージをお届けできるよう企画していきたいと考えております。ぜひご覧いただき、皆さまの声をお寄せ頂きますようお願いいたします。

先月、素敵な青年とお母さんに出会う機会がありました。

ともに療育手帳を持つ20代の青年は、学校時代の曲折を経ながらも、今は仕事に誇りを持ち、信頼し合える友人とカラオケやお酒も楽しむ若者です。お母さんたちから伺ったことは、生まれてきた子供の障害にショックを受け、どのように育つのだろうかと思い悩んだときのこと、一番理解して欲しい支援関係者に尊厳をもって子供に接してもらえず悔しい思いをしたこと、仕事の変化や家族の病気を乗り越えてきたこと、兄弟の結婚式を感動で迎えられたこと、そして、母も子も様々な出会いで支えられ、自らも支え手となり、家族の節目節目の課題に向き合ってきたことです。そんな青年とお母さんに凜としたやさしさと、孤立していない強さを感じたものです。

当事者、家族が相談機関に早期に出会うこと。親も子も身近に相談できる人や共感できる人とつながり、将来のモデルとなる人と出会えること。家族・支援者・地域の人々が当事者の特性を理解し、障害児者が生活年齢に即して尊厳を持って育てられること。暮らしのなかで役割や楽しみがありともに歩む人ができること……。彼らの話を聞きながら、当事者・家族が確かなシステムとライフステージに必要なネットワークにつながることで、そして、その過程で自らのネットワークをつくりながら元気と力量をつける「生涯ケア」の必要性を改めて考える機会となりました。

誰もが自身の人生で、生活機能の障害に遭遇する可能性があるなか、当事者・家族から学び、地域の人たちとともに安心とエンパワメントのしくみを築きたいものです。

今年3月、発達相談支援センター連絡会が2年間に亘って協議した「本市の発達障害児者支援の充実に向けた方向性とアーチルの果たすべき役割」が報告書としてまとめられました。今後のすすむべき地図として具現化していくことが課題です。

最後になりましたが、4月の異動で職員が交代しました。どうぞよろしく願いいたします。

所長 今田 愛子

# アーチル連絡会 からの発信です！

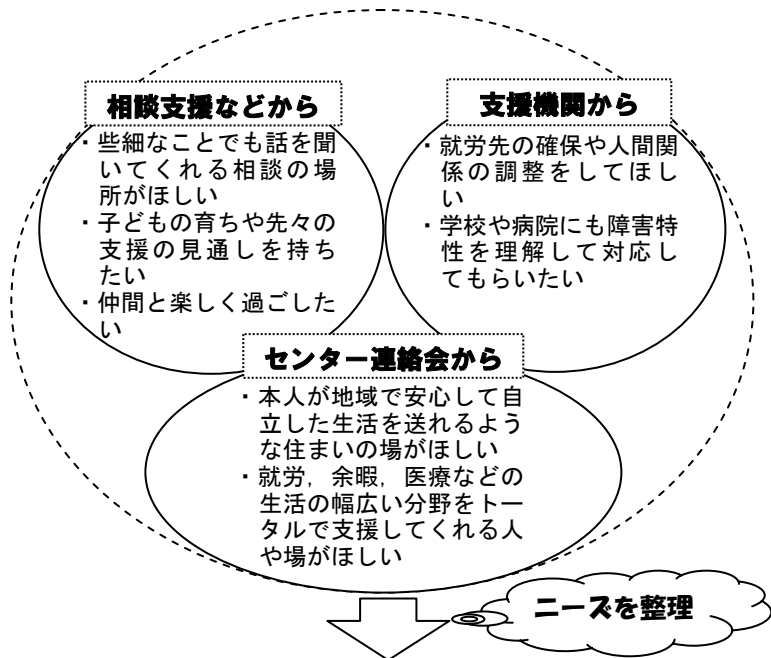
# 誰もが安心して暮らせる地域に向けて

発達障害者支援法や障害者自立支援法の施行、特殊教育から特別支援教育への転換など、障害児者を取り巻く情勢は大きな変革期を迎えています。そのような状況を踏まえて、平成18年3月、発達相談支援センター連絡会が、今後の発達障害児者支援のあり方とアーチルが担うべき役割を示した報告書（「発達障害児者支援の充実に向けて」）をまとめました。

今回の「ちえなっぷ」では、この報告書に基づきながら、これからの発達障害児者支援の充実に向けた方向性及び5年目を迎えたアーチルが果たすべき役割について考えてみたいと思います。

## 本人・家族のニーズの整理と分析から

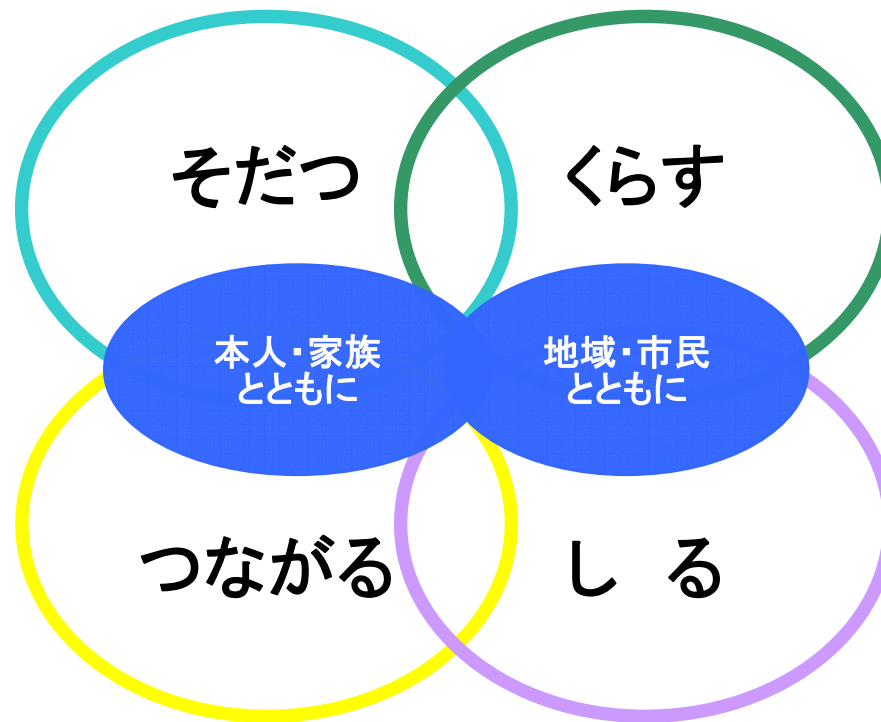
「発達相談支援センター連絡会」は、保護者や生活支援者、学識経験者等を会員として、アーチルの相談・支援や事業が常に利用者のニーズに即して展開されるよう定期的に協議を行うことを目的としています。平成16年度及び17年度は、発達障害児者と家族が安心して暮らしていくために取り組むべき施策への提案、アーチルが担うべき役割を明確にすることを目的に開催しました。



検討に当たっては、保護者会員の意見を出発点として、アーチルでの相談・支援や、乳幼児・学齢児・成人期の各ライフステージでの小集団活動から把握したニーズ、支援機関の職員との話し合いを通して把握したニーズ等から、本人・家族の地域生活におけるニーズを整理しました。

## 地域生活を支える「4つの視点（キーワード）」

「そだつ」「くらす」「つながる」「しる」



## 地域生活の充実に向けて

この4つのキーワードは、日々の相談のなかで、一人一人の生活状況を的確に把握し（アセスメント）、必要な支援は何かを考えるための手がかりであり、相談支援の大切な視点となります。それぞれのキーワードの重みや具体的な支援内容は一様ではありませんが、各々を充実させていくことで、より豊かな地域生活につながるのではないかと考えます。

さらに、このキーワードは、私たちが地域で生活していくうえでの共通の課題であることから、様々なニーズをもつ人たちが、ライフステージや障害種別等を超えて理解し合い、既存の社会資源を評価し、ともに強化・開発して行くための視点になります。また、支援を必要としている「あらゆる障害者、高齢者等が安心して暮らすことのできる地域づくり」を進めるための協働の視点ともなると考えます。

## ～「そだつ・くらす・つながる・しる」の視点から～ 昨年度の取り組みを振り返って

昨年度、アーチルでは、保護者や支援者等と協働し、「母親たちによる母親の相談室『まろん』」や、「余暇活動支援ネットワーク『ゆらねっと』」を立ち上げました。また、「特別支援教育との連携」や「住まいの場」の整備に向けた検討にも取り組み始めました。

これらの取り組みを改めて振り返ると、地域の中でその人らしい「そだち」と「くらし」を支えるためには、仲間や支援者等との出会いの場や互いに支え合っていくネットワークを創っていくこと（「つながる」）、本人と家族がこれからの生活の見通しを持てるようになること（「しる」）が大切であることが分かりました。

アーチルでは、開設以来の理念のひとつである「生涯ケア」について、「育ち」と「くらし」を支えるという視点からその実現を目指してきました。今回の連絡会の取り組みを通して、本人・家族には、「そだつ」「くらす」「つながる」「しる」という4つの共通するニーズがあり、これらは相談支援や包括的な発達障害児者の地域生活支援の基盤を創る際の重要な視点であることが示されました。

アーチルでは、これまでの相談支援の視点「育ち」「くらし」に新たな視点「つながる」「しる」を加え、本人・家族、支援者、市民と、この4つの視点を共有しながら、今後も「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指した取り組みを続けていきたいと思っています。

そだつ

本人と家族が自分の生活を自ら選択・解決できる力を高め、自分が持っている力を最大限発揮しながら自分らしく主体的に生活できる

くらす

「育児や介護負担が軽減する」「住まう場や就労の場が保障される」こと等により、本人と家族が地域において安心して暮らすことができる

つながる

同じ立場の仲間やニーズに応じた支援者と出会い、互いに支え合っていくネットワークが広がることにより、本人と家族が自分自身の可能性に気付いて物事に前向きに取り組む（エンパワメント）ことができる

しる

身近なところで、分かりやすい形で多様な情報を知ることを通して、自己解決力を高め、より主体的に暮らすことができる

# かけはし

「アーチル」とは「アーチ (arch : 橋)」と「パル (pal : 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思っております。



## 療育セミナー報告！

### 第1回療育セミナー

6月4日開催  
339名参加

### 第2回療育セミナー

7月21日開催  
212名参加

「地域での一貫した支援体制の構築に向けて  
～市民との連携・協働による地域づくり～」

姫路市総合福祉通園センター所長の宮田先生から「地域で育ち、地域で暮らす」という演題で基調講演をいただいた後、宮田先生、NPO 法人グループゆう代表理事の中村さん、保護者の目黒さんがパネリストとなり、「誰もが安心して暮らせる地域へ～私たちができること～」というテーマでシンポジウムを行いました。

「地域で自分らしく暮らすために  
～生きがいを見つけた！～」

「ともに生きる、ともに暮らす」というテーマで山梨大学の玉井先生からお話をいただいた後、自分の生きがいを見つけ、生き生きと暮らしているダウン症の青年たちからのメッセージと八戸病院の中井先生からのお話をいただきました。

#### 宮田先生

「これまでの療育は、自立した障害者を育てられたのでしょうか？育てたいのは『自らの人生の主人公として生きていける人』、創るべきは『誰もが認められ豊かに暮らせる地域』なのです。」

#### 目黒さん

「自分ができるところをほんの少しすることで、地域も自分もかわれる。そうして住みやすい地域に！」

#### 中井先生

「本人や家族と共に過ごすことで、自分がやるべきことをみつけられた。」

#### 玉井先生

「障害をもつ方々の暮らし易さはすべての人の暮らし易さ！誰もが何かを与えられる、誰もが誰かを支えられる地域へ！」

#### 中村さん

「誰でも地域で当たり前前に暮らす権利がある。そんな地域にするため自分にできることをしていく！」

#### 佐々木さん

「仲間と一緒にいる時が一番！飲みに行くのも友達と一緒に！最高です。」

#### 佐藤さん親子

「楽しみはスポーツや音楽鑑賞。家業の中華屋の手伝いは父にも頼りにされています！」  
「普通に育ててきました。つらい時もあったけど、楽しみを見つけ、自信になったから今があると思います！」

みなさん共通のメッセージ  
「誰もが地域で自分らしく  
生きるってあたり前！」

## 療育セミナー・特別講座の予定

### 第3回療育セミナー

「自分らしく生活するために  
～高機能自閉症者の地域生活支援を考える～」

日時：平成18年9月30日(土) 13時～17時

場所：仙台市役所8階ホール

講師：別府 哲 氏 (岐阜大学) 他

### 編集後記

今回は、5年間にわたって、みなさんと一緒に進めてきた取り組みから、障害のあるなしに関わらず、だれもがともに地域生活を送るための4つのキーワードが生まれたことについて説明させていただきました。

今後も、みなさんとの「つながり」を大切に、だれもが安心して生活できる地域づくりに、みなさんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。

(後藤)